

## ちひろ・51歳の挑戦

1970年、51歳のちひろは、パステルという新しい画材に挑戦します。パステルでの制作は1970年に集中していますが、そこで得たストロークを生かした描法は、その後の筆勢を生かした水彩画を生み出しました。

本展では、画家として、女性として人生の転換期を迎えた51歳のちひろの姿を浮き彫りにします。

### パステル

色面やぼかしによる表現を得意とするパステルを、ちひろはあえて線描に用いています。自分は器用すぎることに問題だと語っていたちひろにとって、パステルの太い線は、細部へのこだわりを捨てるうえで格好の画材でした。



ちひろ愛用のパステル



1.ピンクのワンピースを着た少女 1970年

### 新たな画風をめざして

#### ——パステルへの挑戦 2つの『となりにきたこ』

ちひろは絵本『となりにきたこ』を一度、鉛筆と薄墨で仕上げていますが、器用にまとめてしまう従来通りの仕事に満足できず、パステルによる大胆なタッチで描き直しています。『となりにきたこ』などのパステル作品と、その後の水彩画も展示し、パステルへの挑戦がちひろの画風にもたらした変化を探ります。



2.そとでごはん たべてもいいでしょ『となりにきたこ』(至光社)より 1970年

パステルで線を描いて、それに水をつけると、水彩絵具より透明なきれいな色がながれでます。そんなおもしろいことをして作ったのが、この『となりにきたこ』です。(中略)君子になんて関係ない私は、豹変しながらいろいろとあくせくします。よい方に豹変したならいいけれど、新しいことというのはいつも不安です。

1970年 いわさきちひろ



3.海とふたりの子ども 1973年

### 51歳のちひろ

1970年、ちひろは、バラエティーに富んだ6冊の絵本や単行本を出版するなど、精力的に仕事をこなしています。一方で、国会議員の妻として、受験生の母として、親の介護を抱えた娘として、多忙な日々を過ごしていました。51歳のちひろからは、人生の転換期を迎えて、前向きに生きるひとりの女性の姿がみえてきます。



1970年 アトリエにて